

これからの日本と原子力

八戸工業大学第二高等学校
普通科 1年 和田 由翔

東日本大震災によって引き起こされた福島第一原子力発電所事故以降、多くの原発が停止する事態となった。その埋め合わせとして火力発電が増加することになった。このことにより、地球温暖化を深刻化させていくことになってしまう。さらに、日本は資源に乏しく火力発電の燃料は海外から輸入しその多くは中東地方に依存している。紛争などが発生すれば日本には多大なる影響がでる。最近ではロシアによるウクライナ侵攻により原油・天然ガスの価格が急騰している。日本のエネルギー事情はとても不安定で、このまま化石燃料に依存している状況が続けば日本の未来が危ぶまれる。

これらの問題の解決のためにはエネルギーの安定供給が重要になってくる。そこで再生可能エネルギーというのが議題にあがってくる。太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、大気中や自然界に存在する熱、バイオマスの7種類。化石燃料とは違い自然界の力を使うことで発電できるエネルギーは、燃料を海外から輸入している日本にとってはぴったりである。しかし、太陽光や風力など天候によって大きく発電量が変動したり発電所の設置に適した場所を調べるのに手間・コストがかかったりときまざまなデメリットがある。発電量が変動し、エネルギー供給が不安定になるのでは化石燃料の依存は終わらないだろう。

そこで注目したのがバイオマス発電だ。間伐材や家畜のふん尿、食品廃棄物などを燃料としガス化させ発電する方法だ。今、日本は食品ロス問題も抱えている。食べ残しやコンビニで廃棄される食料をバイオマス発電とあわせることでSDGsにも貢献ができる。青森県には「バイオガスエネルギーとわだ」(*)というバイオガスによる発電をしている場所がある。ここで日本のさきがけとして取り組み、全国にアピールすることは改善につながると思う。

しかし、これで解決するほど日本のエネルギー問題は簡単ではないだろう。このエネルギー問題において、やはり原子力発電は無視できない。中東から生産される石油と比べるとオーストラリアやカナダなど政情の安定した国から資源を輸入できる。急なエネルギー不足に陥ることもなく、燃料の再利用もすることができる。だが、それとひきかえに事故が発生すると深刻な被害を生むというデメリットがある。

これがないとエネルギー問題は今よりは、ましになると思う。しかし、今の日本には福島第一原子力発電所事故の経験がある。昔よりも十分な安全対策をとって地震に立ち向かえらなければならない。今の日本には再生可能エネルギーの活用とともに原子力発電もこれから増やしていくべきだ。

この作文をとおして青森県の再生可能エネルギーの取り組みについて調べ考えを深めることができた。エネルギー問題について聞きつつも現状に安心していただけだったが、これからを背負っていく世代として日本の問題について理解を深められたことはとてもよい経験になった。原子力が日本を支える日が来るかもしれない。それには日本人の原子力の考え方を変える必要がある。そんなときに、学んだ知識を生かしていきたい。

◎出典

*バイオガスエネルギーとわだ・県南環境保全センター（株）

<https://www.kkhozen.co.jp/catalog>